

紹介

永井恒司先生 紫綬褒章受章

星薬科大学薬剤学教室 教授

高山 幸三

Kozo TAKAYAMA

星薬科大学名誉教授永井恒司先生は、平成 11 年 4 月 29 日、栄えある紫綬褒章を受章された。

永井先生は昭和 31 年東京大学医学部薬学科を卒業後、直ちに東京大学大学院博士課程に進学され、故野上 寿教授のもとで薬学博士の学位を取得された。昭和 36 年東京大学薬学部製剤学教室助手に就任され昭和 46 年まで勤務された。この間、昭和 40 年より米国コロンビア大学に 1 年間、ミシガン大学に 1 年間博士研究員として留学され、昭和 46 年星薬科大学薬剤学教室教授に就任された。爾来 28 年間にわたり精力的な教育・研究活動を通じて薬剤学教室を大きく発展させるとともに、世界的なリーダーとして薬剤学・製剤学の発展に多大なる貢献をされた。平成 11 年定年退職後、星薬科大学名誉教授の称号が授与された。

永井先生の研究は、生物学的利用能の解明と制御ならびに薬物送達システムの開発であり、その内容は固形剤の溶解速度論に始まり、薬物移行、薬物相互作用、添加物の製剤物性、経粘膜・経皮吸収、製剤設計論、薬物代謝・薬動学、臨床治験に至るまでの多岐にわたり、数多くの輝かしい業績を残されている。原著論文は 530 報に及び、94 編の専門書を上梓された。その数ばかりでなく、関連領域での論文引用頻度が世界第 4 位というレコードもつくられた。

近年、薬を効果的に患部に運び、それ以外の部位への分布を抑えることを目的とした薬物送達システムが重要な研究分野となっているが、先生はいち早くその重要性に着目し、局所適用における薬の生物学的利用能を放出制御の面から究明する研究に着手された。とりわけ独創性に富む成果としては、製剤用高分子素材であるヒドロキシプロピルセルロースとカルボキシビニルポリマーの混合粉体が、口腔や鼻腔の粘膜部位に強力な付着性を示すことを発見し

たことである。これら高分子の混合粉体を利用することによって、剤形に粘膜付着能と薬物放出の制御機能を同時に賦与し得ることが、先生の研究によって初めて明らかにされた。この研究は単なる基礎研究にはとどまらず応用開発研究に及び、粘膜のように水分の多い部位には物は付着し難いとする既存の概念に反する「粘膜付着性製剤」というユニークな新剤形の開発に新しい道を拓いた。この成果を応用して 3 品目に及ぶ新規医薬品が実用化され、既に医療の場に供されている。

学界においては、国際薬学連合(FIP)副会長、日本薬剤学会初代会長、シクロデキストリン学会初代会長、国際コントロールド・リリース学会会長、FIP 医薬科学院常任理事、FIP 教育研究財団常任理事、日本 DDS 学会理事長等を歴任され、現在は(財)永井記念薬学国際交流財団理事長、アジア薬連大学の初代学長を兼任されている。

昭和 61 年には、先生の研究業績に対して FIP より日本人初の金メダル学会賞ヘスト・マドセンメダルが授与された。このほか、日本薬学会奨励賞、全国発明賞、日本薬学会学会賞等を受賞され、外国の大学より名誉博士(トルコ)、特別教育研究教授(ニュージーランド)、名誉教授(中国、オランダ)の称号を授与されている。平成 10 年には、日本人として初めて中国薬学会名誉会員に推挙された。さらに、国際コントロールド・リリース学会(CRS)は、先生の研究業績と会長功績を讃え、CRS Nagai Innovation Award を設け、来る西暦 2000 年に第 1 回の授賞を行うことになった。

このたびの紫綬褒章受章は、薬剤学の教育・研究に対する先生の偉大なる功績を讃えるに相応しいものであり、門下生の 1 人として心からお祝いを申し上げる次第である。今後はご健康に十分留意され、ますますご活躍されることを祈念致します。